

TTA レポート (NO.108)

2016年度を迎え、総会も終え、新体制で全員一丸となって、2022年の栃木国体を目指し、一步一步目標に向い邁進していきたいと思ひます。

1、2016年関ブロ(山梨県にて)

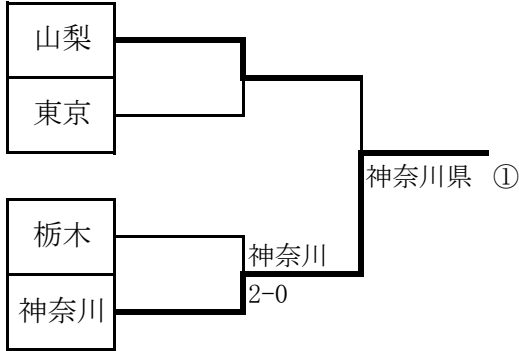
1.1 栃木県予選

日 時	平成28年5月28日(土)、5月29日(日)	
会 場	栃木県総合運動公園	
結 果	成年男子(関ブロで予選)	成年女子(本国体に直接)
一位	油布 将也	吉田 麻美
二位	玉腰 菊	諏訪 仁美
三位	牧野圭一	齋藤 美幸
四位	鈴木 佳	加藤 美怜

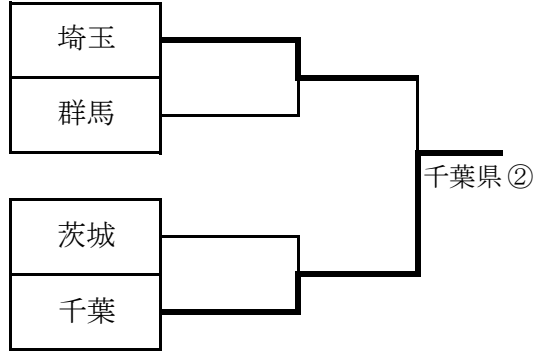
男子上位2名の選手は、8月6日、7日に山梨県甲府市で行われる関東ブロック大会に出場、女子上位2名の選手は、10月1日～5日岩手県盛岡市で行われる本国体に出場。

1.2 山梨県での関ブロは、今年5/8県で競い、炎天下で厳しい各都県での激戦だった。

Aブロック



Bブロック



③通過 山梨県

④通過 東京都

⑤通過 **栃木県**

埼玉県の棄権----- 他人事ではないが、熱中症は怖いですね。

2、7/23(土)18ー サミット会議(年一回の副理事長以上の会議)

①国体調査の最終版---県体協とJTA(ジュニア人数) H28.6.30現在 県教育委員会 スポーツ振興課

	小学生	中学生	高校生	社会人(大学生含む)	選手計	審判員
男子	44	65	1,050	1,760	2,919	32
女子	18	58	390	865	1,331	43
選手計	62	123	1,440	2,625	4,250	75

JTA等、各種調査のベースに使用する。

②県体協と県教育費補助の経緯。使い道

2022年栃木国体目指し、県体協の他に、次代を担うジュニアの開拓・普及・育成・強化のため、県教育委員会から補助を支給。長期的計画踏まえ有効活用を！！今年度から役員養成事業として主に審判養成のための補助金が制定されたので、岩手国体を吉井副理事長、鈴木審判委員長、鈴木総務経理副委員長で視察してくる。その際、審判台の高さを見てくる。国際基準では180センチメートルだが、国体ではどう対応しているのか。また、オフィシャルボードも調査してくる。

③テニスP&Sの各県の主な取り組み

JTAの中で指導員を認定しているが、競技の指導員とはレベルの差があり同等に扱って良いのか議論になっている。県内では各市協会で取り組んでおり、補助金を前もって支出して事業後に精算すれば各市協会の負担は少なくて済むので、配分の仕方を検討する。

④ベテラン女子の増対策、ダブルスの活性化

現状では決定的な対策はないが、女子連の更なる活性化を目指し、TTAへの要望等をヒアリングする。

⑤実業団関東ビジネスパル

7月16、17日に開催、開会式には上野会長、横松副会長臨席あり、懇親会には石下秘書、横松副会長臨席。栃木県は女子栃木県教職員チームが全国大会(広島)出場。

以上